

6

売れる米づくり技術情報No.6

令和5年7月21日
J A え ち ご 中 越
なんかん南営農センター

～なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい～

穂肥施用による後期栄養の確保と飽水管理で
稲体の活力を維持しましょう！

1. 7月20日現在の水稲生育状況（なんかん南地区管内平均）

- コシヒカリは草丈長く、茎数並、葉数並、葉色やや淡い状況です。
- こしいぶきは草丈やや長く、茎数並、葉数並・葉色濃い状況です。

品種		草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色	
					(SPAD)	葉色板(単葉)
コシヒカリ	本年	84	401	12.2	33.0	4.3
	前年	87	373	12.4	32.3	4.2
	指標	78	390	12.0	34.0	4.5
こしいぶき	本年	81	433	12.7	38.2	
	前年	89	423	12.5	37.0	
	指標	77	430	12.7	37.0	

葉色の SPAD 値から葉色板への数値の読み替えは、コシヒカリ・出穂前 14～12 日のものです
※コシヒカリ元肥一発体系の場合、葉色(SPAD)指標値は『35.5』となります

2. 今後の高温により葉色が急速に低下することも予想されます。後期栄養をしっかりと確保するために、施肥体系を考慮し必要な場合は確実に追肥を行いましょう。

- 出穂前 10 日頃の穂肥は後期栄養を維持するため、窒素成分で 1.0～1.5kg/10a を施用しましょう。葉色が淡い圃場は直ちに施用しましょう。
- 元肥一発肥料の圃場でも、葉色が大きく低下している場合は後半の肥切れが心配されますので、出穂 10 日前頃に穂肥を施用しましょう。
- 出穂前 10 日以降でも、高温が予測される場合は、下表をめやすに追加穂肥を施用しましょう。

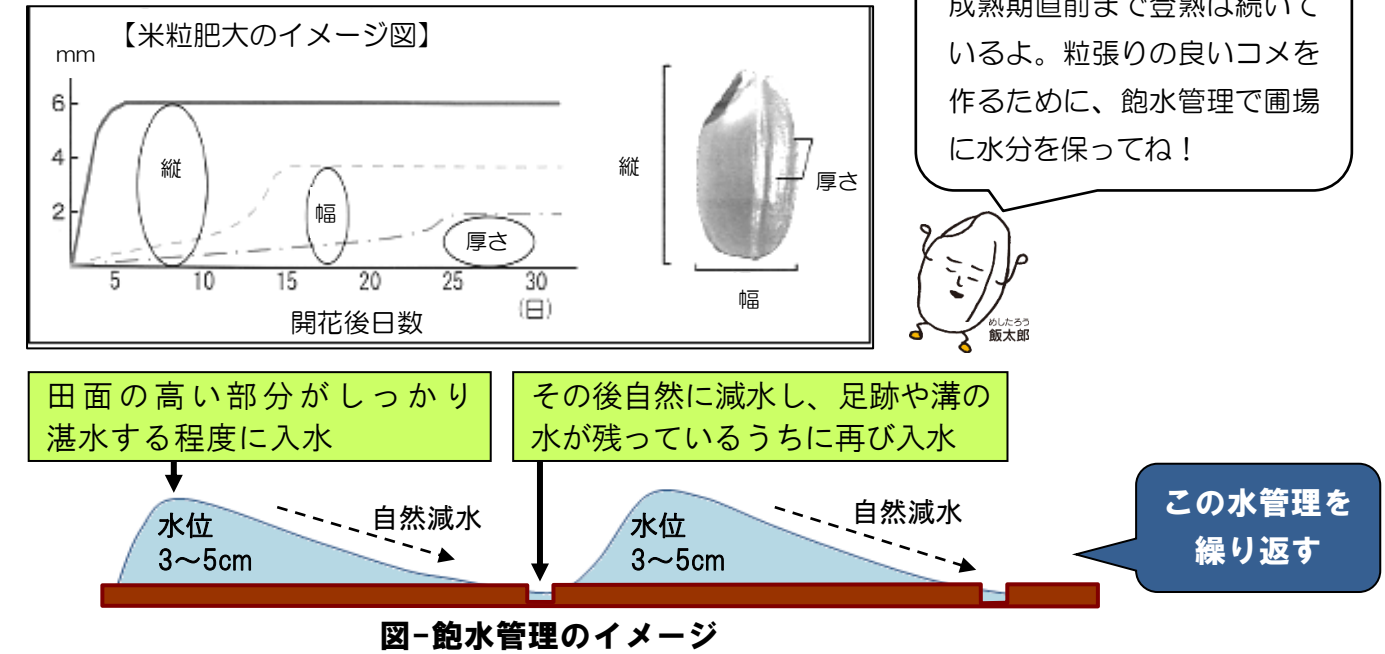
【表-追加穂肥の判断めやす】

施肥体系	追加穂肥の判断条件	追加穂肥の時期と施用量
分施	出穂6日前の葉色が、 SPAD 値 33 以下(葉色板では単葉で 4.4 以下) 出穂3日前の葉色が、 SPAD 値 31 以下(葉色板では単葉で 4.2 以下)	出穂3日前までに、 窒素成分で 1.0kg /10a を上限に施用
元肥一発	1 回も追肥を行っていない状態で、 出穂期の葉色が、 SPAD 値 32～33 以下(葉色板では単葉で 4.3～4.5 以下)になる見込み	出穂3日前までに、 窒素成分で 1.0kg/10a を上限に施用

※有機質肥料を施用する場合は、「売れる米づくり技術情報 No.5」を参考にして早めに施用しましょう。
※3 割減栽培は化学窒素成分の上限 4.2kg、こだわり米(5 割減栽培)は上限 3.0kg を超えないように計算して施用してください。

3. 梅雨明け後は飽水管理に移行し、継続することで土壌に十分な水分を保ちましょう。

- 梅雨明け前までは排水対策を行い、地耐力の強化に努めましょう。梅雨明け後は「飽水管理」に移行し、十分な水分を供給しましょう（出穂期前後 5 日間は水を一番必要とする時期です）
- 玄米の発達は出穂開花後 25 日以降まで続きます。出穂期 25 日後までは飽水管理を継続し、土壌に適度な水分を保つことで窒素の発現を促して後期栄養を維持するとともに、白未熟粒の発生を抑えて整粒歩合を高めることができます。



- 夜間給水可能な圃場は夕方入水し、水を効率的に利用しましょう。
- 高温下の常時湛水は根腐れにつながります。自然減水の速度が遅く湛水状態が長く続く圃場では、圃場状況をみながら水の更新を行いましょう。
- 夏場の水管理対策については、裏面をご覧ください。

4. 高温になるとカメムシの活動が活発になります。斑点米による格落ちを防ぐため、水田周辺の雑草管理や水田内の除草、及び適期の薬剤防除を行いましょう。

雑草管理	○ 斑点米カメムシはメヒシバなどの出穂したイネ科雑草を好み、ノビエやイヌホタルイなどの繁茂・結実の水田への侵入・増殖を助長します。水稻の出穂後も農道・畦畔の草刈り及び水田内雑草の除草に努めましょう。		
薬剤防除	○ 共同防除実施時期と、出穂期に大きく差がある場合は、追加で個人防除を行いましょう。		
	○ 共同防除で対応していない地域では必ず個人防除を行いましょう。		
	○ 圃場全体に基準量を散布し、粒剤の場合は適正な水深で散布しましょう。		
防除適期	粉・液剤	1 回散布の場合	出穂期 3 日後～10 日後
	粒 剤	2 回散布の場合	出穂期の 7～10 日後とさらにその 7～10 日後
防除適期	粉・液剤	-	出穂期～出穂期 7 日後
	粒 剤	-	出穂期～出穂期 7 日後

5. いもち病の早期発見に努め、発生状況に応じて適切に防除を行いましょう。

- いもち病の発生に好適な条件が続いており、各地で葉いもちが確認されています。
- 葉色が濃いところやいもち病に弱い品種を中心に圃場を見回り、葉いもちの発生を確認したら直ちに防除しましょう(コシヒカリ BL で少発生の場合除く)。
- 紋枯病は前年多発生した圃場で多発生しやすいので、発生を確認した場合は早めに防除してください。

【お問い合わせ先】 なんかん南営農センター米穀課 0258-61-2903

異常高温に注意！

夏場の水管理対策

近年、台風の接近に伴うフェーン現象による出穂後の異常な高温で、コシヒカリを中心に心白粒等の白未熟粒が混入し米品質が低下することが多くなっています。

限りある農業用水を効率的に使用し、異常高温から少しでも稲を保護するため、以下を参考にほ場の水管理を行いましょう。

1. 通常時の水管理は「飽水管理」



- (1) 水尻はしっかり止水します。
- (2) 田面の高い部分がしっかり隠れる程度にかん水。
- (3) 入水後は、水尻は止めたまま自然減水。
- (4) 足跡や溝の底に水が残っている状態まで水が減ったら、再びかん水します。
- (5) 出穂 25 日後頃まで、この管理を繰り返します。

2. 異常高温が続く場合は「浅水でこまめに入水」

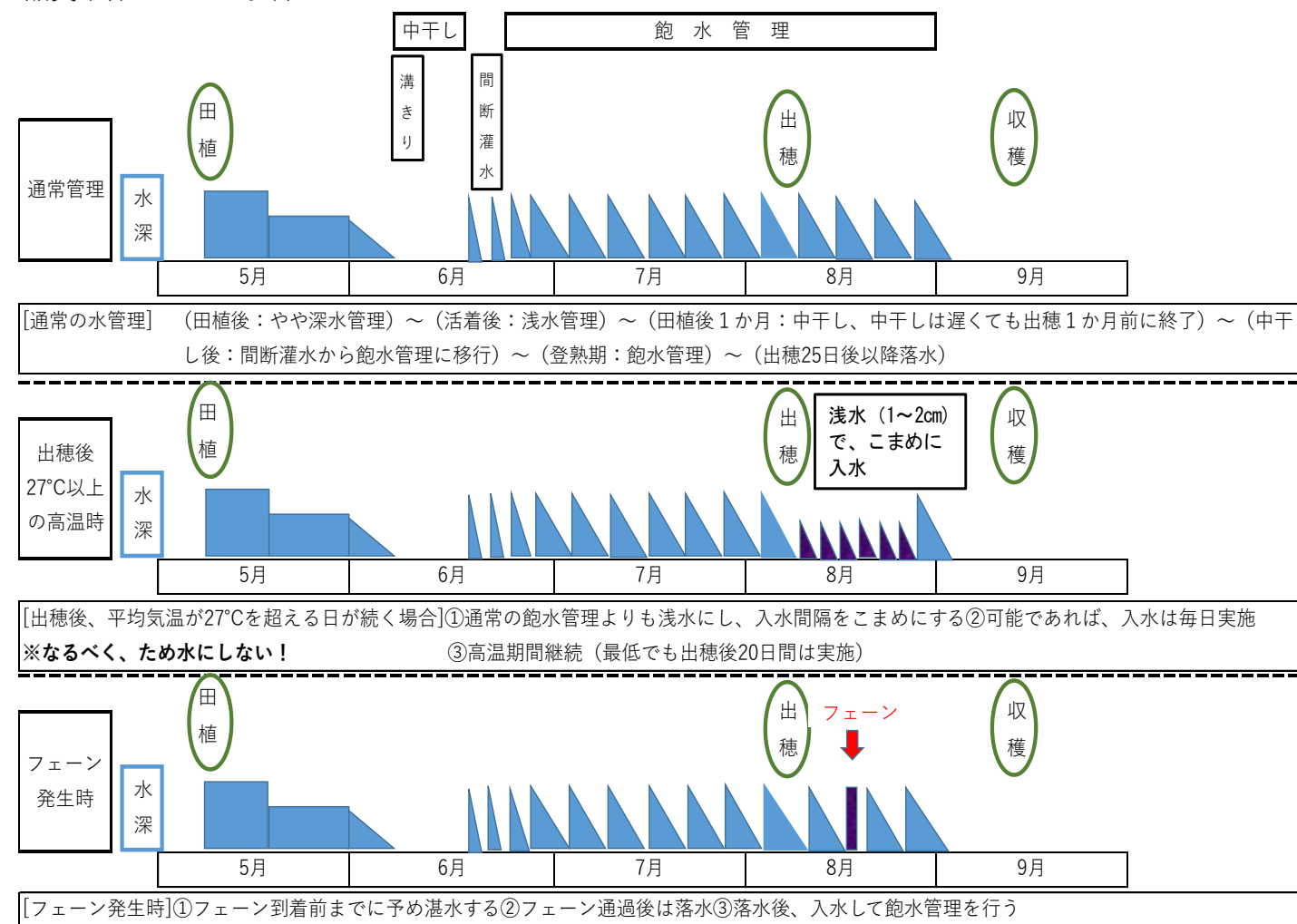
[出穂後、平均気温が 27℃を超える日が続く場合]

- (1) 通常の飽水管理よりも浅水にし、入水間隔をこまめにします。
- (2) 8 月以降異常高温が 2 日以上続く場合は、水利の状況を見ながら水更新を行い、ほ場の水温上昇を抑えるよう努めましょう。

3. フェーン発生時の対応は・・・

- (1) 週間天気予報や台風情報等をもとにフェーンに備えましょう。
- (2) 異常高温や強風フェーンの襲来予想日の 2～3 日前頃からかん水を行い、水を掛け損ねることのないよう対応しましょう（少なくとも土が湿った状態にしましょう）
- (3) 異常高温収束後は一旦落水し、その後通常時の対応（飽水管理）に切り替えます。

品質確保にむけた水管理のイメージ



夏場は用水の使用量が多くなるため、用水路の下流域の水田では水不足が懸念されます。以下の点に留意し、地域全体で効率的に農業用水を使用するよう心がけましょう！

- ① 掛け流しは絶対行わない
- ② 暗渠を閉め、水尻をしっかりと止めて入水する
- ③ こまめに水回りを行い、入水したら速やかに水口を止める

農業用水は限りある資源です。効率的に農業用水を使用するよう、みんなで心がけましょう。

「なんかん稲作チャンネル」配信中！

■ 水稻栽培技術の大事なポイントを、営農指導員が動画で解説します！下記 QR コードまたは URL からご覧いただけます！

【QRコード】



【URL】

<https://www.youtube.com/channel/UCAN5RXNeNj9bTHXaQmxwb1Q>

※JA 名は撮影時のものです

お米情報専用 LINE 友だち募集中！



■ 米穀関連情報を随時配信しています。登録は下記 ID または QR コードから ↓ ↓

【QRコード】



友達追加→QRコード

【ID】

@193sandh

友達追加→検索